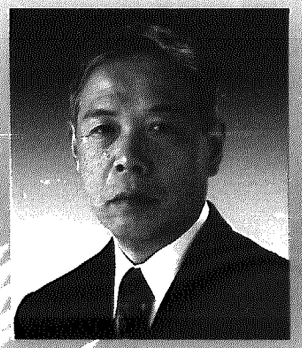
合併と活力・個性ある地域の創造に向けて

村　長　坂爪惣一郎



謹んで新春のお慶びを申し上げます。

村民の皆さまには、ご家族お揃いで健やかにして、希望に満ちた新年をお迎えのこととと拝察申し上げ、心からのお慶びを申し上げます。

過年は、皆さまからのご支援とご協力をいただき、円滑な村政執行が出来ましたことを、誠に有り難く、厚く御礼申し上げます。

現在の時代における変革、進歩のスピードは、過去の10数年が、1年あるいは1か月に相当する位に目まぐるしいものでありますが、昨年も国内、国外は言うに及ばず、私ども地方自治体や地域にとっても、激動の1年であったと回顧される年でありました。

すなわち、国内にあっては、依然として景気低迷の域を脱しきれない景気のなかで、金融制度の変革、倒産・失業の増加、年金・福祉の将来的担保に対する不安が露呈し、社会的基礎基盤の揺らぎから、これらと関連する家庭崩壊や痛ましい犯罪を招来した1年でありました。また、国外にあってはニューヨークの自爆テロに端を発したイラク戦争が泥沼化、北朝鮮拉致家族の再会問題も目処の立たないままの越年となりました。

私どもの岩室村にありましては、前年に引き続き合併問題への取り組みが行われましたが、他のすべての自治体が直面していると同様に、財政事情も大きく影を落とした1年でありました。

合併問題につきましては、平成15年2月に村議会の議決をいただき、従前の西蒲南部・寺泊方面への合併から新潟地域への合併を選択させていただき、平成15年6月には「新潟地域合併問題協議会」への加入承認が行われ、以来、今日まで合併建設計画をはじめ、身近な行政制度についての調整協議を行い、その結果に基づき住民説明会を開催させていただきました。合併の意義については今更申し上げるまでもないことでありますが、これからも進行する少子高齢化社会に臨み、その地域に生活する人々に対して、最も身近な行政主体として自治体の責務である種々のサービス提供を可能とするために、地方自治体が権限、財源を取得し、地域のことを地域で考え、地域自身が地域の責任において実行する、そして結果責任も地域が果たす、地方分権による地方自治の本旨を実現することが目的であります。そして、このことを実現するための一つの有効な手段として合併が検討されているものであります。地方分権では行政と住民との役割分担が行われるなかで、地域住民が自らの地域は自らの力で支え創造するという高い志と、その志を裏打ちする行動力が、地域繁栄の命運を握ることとなります。地域における活力の維持と地域づくりのためには、地域における自治組織の構築が、地域の発展にとって必要不可欠な要件となります。本年は、新たに発足が予定される法定の「新潟地域合併協議会」に参加し、合併の具体的実現に向けての協議を行うことと併せて、合併後の地域自治についても検討してまいりますので、皆さまからのご理解とご支援をお願い申し上げます。

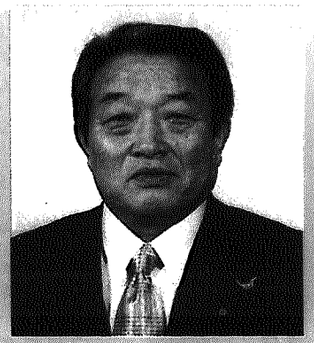
次に本村の財政事情についてでありますが、景気の低迷に加え、国などの行財政改革の影響により、例年以上の収支不均衡が予測されるなか、公債費償還に代表される義務的負担などはそのピークを迎えることとなっており、加えて合併関連歳出も予定されることとなっております。平成16年度予算では、従来からの施策である、福祉の充実、生活基盤整備、産業の振興を主な柱として継承致しますが、特に村の基幹産業の一つであります農業については新たな政策である「米政策改革大綱」に示された地域水田農業ビジョンの推進に努めることとしております。このほか、合併記念事業として、新潟地方植樹祭を村民参加型として実施するほか、合併記念誌の刊行も予定しているところであります。間もなく始まります新年度予算編成は、極めて厳しい財源のなか、従来からの既定歳出についても、その効果と将来的展望に立っての検証を余儀なくされると考えられますので、何分のご理解をお願い申し上げます。

合併協議が予定どおり進捗してまいりますと、平成16年は岩室村の歴史にとって最後の年ということとなります。新生岩室村発足以来40余年、岩室村の名前が消えることは、少しばかり寂しく残念ではありますが、合併後にこの地域がより発展できることに夢と希望を託したいと念じております。先人から永年にわたり受け継ぎ育んできた、緑豊かな多宝の山脈、果てしない沃野、雄大な日本海、緑と太陽と水の里岩室村に生活する人々が、合併後においても豊かな感性と個性をこの地域に残しながら発展することを祈念しております。

結びに、皆さまにとりましてこの1年が、ご健康にして幸多い年でありますことを、心からお祈り申し上げますと共に、本年も変わらぬご理解とご協力をいただきますようお願い申し上げ、新春のごあいさつとさせていただきます。

村民の皆さまが夢と希望の持てるまちづくりを目指して

村議会議長　三富　新一



新年あけましておめでとうございます。

村民の皆さまには、健やかで希望に満ちた新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年の我が国経済は、株価の上昇や企業業績の改善などにより、景気は一部には明るい兆しが見えてきたと云われたところでありますが、依然として雇用情勢やデフレ問題などが解消されず、深刻な状況であったことは否めません。また、政治面では昨年末から大きな懸案となっておりますイラクへの自衛隊派遣の問題、さらに一向に進展の見えない北朝鮮による拉致問題など、重要課題が山積している状態であります。

ところで、本村では昨年も厳しい財政事情のなかで、岩室駅周辺整備事業や公共下水道事業などの生活環境整備をはじめ、福祉・教育の充実に意を注いできたところであります。一方、国においては平成16年度予算を「歳出改革路線の堅持」と位置づけ、地方への補助金の削減・税源移譲・地方交付税の見直しなど、「三位一体」の行財政改革が進むものと思われます。ちなみに、平成16年度は地方への補助金1兆円の削減が、すでに示されているところであります。このような厳しい財政状況ではありますが、公共下水道事業をはじめとする継続事業に取り組むと共に、各分野における施策の充実につとめ、村民の皆さまのご期待に応えていかなければならないと考えております。

また、本村の基幹産業であります水田農業の振興については、本年4月から始まるコメ政策の改革により、昨年末に生産目標数量の配分を受けたところですが、「需要実績に応じた配分」には程遠く、改革の理念に逆行するものであります。議会といたしましても「売れる米づくり」を目指す水田農業確立のため、担い手農家を中心とした農業者の支援に全力で取り組んでいく所存であります。

次に、本村にとって大きな節目となる合併問題であります。本村の合併推進経過につきましては、紆余曲折を経ながらも最終的には「新潟圏域が望ましい」との結論に達し、昨年の6月16日開催の第6回任意協議会で参加を承認されたわけであります。以来、各種の協議や検討を重ね、ようやく合併による「行政制度やまちづくり計画」などの合意がなされ、先の12月定例会において正式に合併問題を協議する「法定合併協議会設置案」を、賛成多数で可決したところであります。今後は、残すところ1年余りとなりました「合併特例法」の期限を念頭に、「世界にはばたく交流拠点の実現」、「高次都市機能と豊かな自然環境との調和・共存」を基本理念に「田園型政令指定都市」の実現に向け、村民の皆さまが夢と希望の持てるまちづくりを進めていくことが私共の責務と考えておりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

なお、本年は村議会議員の任期満了に伴い、今月18日に本村としては最後の議会議員を選ぶ選挙が行われます。今回から2名の定員削減がなされ16名となりますが、議会の活性化に向け今後とも精一杯努力をいたす所存であります。

終りに皆さま方のご健勝、ご多幸を心からご祈念申し上げまして新年のごあいさつといたします。

2004年 今年は申年です

申は、桃太郎やサルカニ合戦にも登場するおなじみの動物です。ひと口にサルといっても体重や種類など実にさまざまです。

ゴリラなどの大きいものでは、体重約200キロ以上もあります。一方、マダガスカルにいるミミゲコビトキツネザルは体重45グラムほどです。また、大きなシッポを持ち、木の上で生活する原猿（下等霊長類）の中には、一見リスに似たものもいます。そのほか、オラウータンやチンパンジーなどのように高等霊長類もいます。

日本に生息しているのはニホンザルです。顔とおしりの赤いおなじみのサルです。ニホンザルの南限は鹿児島県の屋久島、北限は青森県の下北半島です。ニホンザルは昔から日本人に親しまれてきました。昔話はもちろんですが、古事記や日本書紀にも登場し、道案内をするサルタカヒコノカミは、申であるともいわれ、今では道祖神として祭られています。